

Akira Chino

この春からホノルル在住のネットワーク・ジャーナリスト。
長年日米のBBS事情を取材しているが、
日本の通信環境を考えると
ついグrouchy(不機嫌)になってしまう。
chino@pcvan.or.jp (Japanese Kanji)
akira@lava.net (English)



新連載

グrouchy 知野の ジャパン・バッシング

1

ものになる。前は単なるテレネット接続であったため、いま流行りのWWWをはじめIP接続ならではのソフトウェアを使うことができなかったが、今度はPPP接続なのでGUIでインターネットを利用できるようになった。

ところがこのPSI(正確にはInterRamp)ホノルルにアクセスポイントがない。ソフトウェアを頼んだときには近々できる予定だという話だったが、正式IDを取ってしばらくしてからサポートに電話で確かめたところ、いまずくにホノルルにアクセスポイントができる予定はないと言う。これでは電話代がたまらないのであわててハワイのローカルプロバイダーを探す。ちょうどタイミングよく近くの学校でインターネットの取材をしたときにローカルプロバイダーを紹介してもらったのでさっそく入会した。このプロバイダー、アクセス時間無制限で月々28ドルなり。ちなみにInterRampのほうも似たような料金。

えらく長い前置きになってしまった。今月からしばらくアメリカのインターネット、そして商用BBSなどコンピューターネットワークとそれを取り巻くいろいろなお話をさせていただくことになった。タイトルに「ジャパン・バッシング」とあるように、日本が遅れ

ている面も多々指摘していくことになると思うが、グrouchy(不平家)の小言と思っ
て気楽に読んでいただきたい。なせ
アメリカに住み着いて3年。
他のことでは日本のほうが
いいと思ったことは少な
からずあったが、ことネ
ットワーク環境に関して
はすべてにおいてアメリ
カのほうが上であると認識
している。アメリカのネッ
トワークのよさと進んでいる面を1人
でも多くの日本人に知ってもらい、日本のネ
ットワーク環境の進歩に少しでも役に立てれ
ばこの上ない喜びである。

引っ越しといえばまず電話

機会あるごとにあちこち書いてきたが、日米のネットワーク環境の決定的な差は電話料金だろう。ハワイに引っ越してきて電話を3本引いた。ボイス用、FAX用、モデム用にそれぞれ1本ずつというわけだが、これにかかった費用が300ドルちょうど。これでもハワイの場合、保証金として1本につき60ドル取られるのでえらく高いほうである。もともとこの60ドルは、1年経つとちゃんと利息が付いて返ってくる。

つい先日、第1回目の請求書がきたが、3本合わせて180ドルほど。この中にはInterRampへのアクセスのためにカリフォルニア



ハワイからカリフォルニアへ長電話78ドル!!
でもこっちじゃ高~い!



にかけまくった長距離通話代78ドルほどが含まれている。すなわち最初からハワイのローカルプロバイダーに入会していれば、電話代は3本で100ドルほどですむ勘定になる。いくらアメリカでも個人で3本も電話を引く人はそうそうはいないらしく、電話局で申し込んだときも工事にきた人間にも念を押された。普通の家庭の電話代といったらせいぜいが数十ドルで、100ドルを越えようものなら大事件である。先日取材で会った人が、親戚がハワイに遊びにきてカリフォルニアのBBSにアクセスしまくって電話代が200ドルを越え家中大騒ぎになったと言うから、日本で同じようなことをやったら電話代は2000ドルはいってもおかしくないと言ったら、絶句していた。ちなみにハワイとカリフォルニアは一応国内ではあるが、約4000キロ離れている。日本とハワイの距離が6000キロと言えばどれくらい遠いかおわかりいただけるだろうか。名目は国内でも、回線状態から何もかも国際通話と変わらないカリフォルニアに筆者も回数にして100回ほど、時間にしてのべ10時間ほど長距離通話をかけた結果が78ドルである。アメリカ人にとってはこれでも卒倒するほどの金額なのである。

もちろん、市内通話は月十数ドルの基本料金の中に含まれていてかけ放題。だからアメリカの場合、市内通話地域内にネットワークのアクセスポイントがあるかどうかは実に重要なファクターである。ハワイの場合、全体的に遅れ気味で、引っ越してきたときにはほとんどのネットワークに14400bpsのアクセス

ポイントがなかったのだが、アメリカ・オンラインがインターネットからのTCP/IP接続ができるようになったり、コンピュサーブやプロディジーが14400bpsをサポートしたりして残るはTymnetとSprint Netくらいになった。こうして市内にアクセスポイントさえあれば、電話代は全く気にすることなくネットワークにアクセスすることができる。

何万局もあるローカルBBS

現在筆者が利用しているインターネットのプロバイダーLava Net (Lavaとは「溶岩」の意味) のように月額固定料金制のネットワークであれば、電話代を含めて一切時間を気にすることなくアクセスし放題である。さすがに1回のセッションが10時間まで、法人ユーザーは使えないという制限はあるものの、その気になれば朝から晩までつながりばなしでUNIXのプログラミングを自宅の端末からオンラインで、などということも可能である。アメリカには何万局とも言われているローカルBBSがあり、大小の商用ネットワークとともに今日のアメリカにおけるネットワーク社会の形成に一役も二役も買っている。インターネットがこれだけアメリカでポピュラーになったのもローカルBBSや商用ネットの下地があったからであり、そのローカルBBSの隆盛は安い電話料金体系というインフラの上に成り立っている。昨年参加したBBSのコンファレンスではスピーカーの人が「インターネットはローカルBBSのためにあるようなものであり、インターネットの真の普及・

推進役はローカルBBSのシスオペである」というようなことを話していたが、何万というローカルBBSが全国に散らばっていたということ、インターネットの急速な普及とは決して無関係ではあり得ない。

日本でインターネットバブルを見た

一方日本のインターネット環境はいかかなものであろうか。3月末に日本に行ったときは、あまりのインターネットブームに驚きを禁じ得なかった。しかし、そのブームは決して地に足がついたものではなく、金儲けのため道具として使われているだけ、と感じてしまった。山のような関連書籍が出版されているが、インターネットの文化や内容について書かれているものは翻訳物を除くとほとんど見かけなかった。その翻訳物にしても、日本の実状とはかけ離れたものをただ日本語にただけという物が目立つ。パソコンショップなどでは完全に客寄せ、あるいはハード・ソフトを売るための道具としかとらえられていない。こんなことでは本当のインターネットの姿など伝わりはしまい。そうでなくともインターネットの数ある機能の一つに過ぎないWWWだけが異常にもはやされているのが現在の日本におけるインターネットである。このままバブルとして消えてしまうにはあまりにもつたいない。もっとも、インターネットに限らず日本に本当のパーソナル・ネットワークが根付くためにはまずインフラとしての電話代がもう少し何とかならないとどうしようもないかもしれない。



DATA CHECK

..... 距離で見える通話料金

アメリカ国内(平日昼間: AT&T)

10分間話した場合の概算例

	都市名	ホノルル	カルフォルニア	シカゴ	ニューヨーク
都市名	ホノルルからの距離	0km	4000km	7000km	8000km
ホノルル	0km	月15ドルかけ放題	2.7ドル	3.0ドル	3.3ドル
カルフォルニア	4000km	2.7ドル	月15ドルかけ放題	2.7ドル	3.0ドル
シカゴ	7000km	3.0ドル	2.7ドル	月15ドルかけ放題	2.7ドル
ニューヨーク	8000km	3.3ドル	3.0ドル	2.7ドル	月15ドルかけ放題

日本国内(平日昼間: NTT)

	都市名	東京	川崎	静岡	大阪
都市名	東京からの距離	0km	(隣接地域)	(~160km)	(320km~)
東京	0km	40円	70円	270円	600円
川崎	(隣接地域)	70円	40円	470円	600円
静岡	(~160km)	270円	470円	40円	600円
大阪	(320km~)	600円	600円	270円	40円

注) アメリカではさまざまな通話サービスを選択できるので、実際はもっと安くなる。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp